

経済・金融フラッシュ

No.08-036 2008/6/5

米5月ISM指数は、製造業が4ヵ月連続で50を下回る

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doihara@nli-research.co.jp

1、製造業指数が低迷持続の半面、非製造業指数は連月で50台を維持

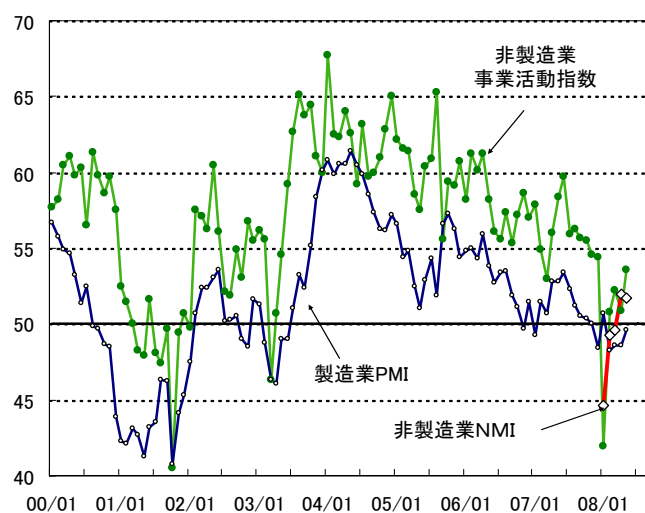
企業のセンチメントを示すISM（米供給管理協会）指数は、5月製造業指数（PMI）が49.6となり、4月（48.6）、市場予想（48.5）をともに上回った。しかし、製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50は、4ヵ月連続で下回り、依然縮小局面にあることを示した。

一方、5月の非製造業指数（NMI：注）は51.7と4月（52.0）から低下したが、市場予想（51.0）は上回り連月で50を超えた。また、これまで非製造業の景況感を示す指数とされていた事業活動指数は53.6と4月50.9から上昇、4ヵ月連続で50を上回った。事業活動指数は、1月に41.9とテロ事件直後の2001年10月（40.5）以来の低水準に落ち込んだが、2月以降50台を回復しており、事業活動について「上昇した」との回答比率は、1月の18%から5月は32%と高まっている。

以上のように、ISM指数は、製造業では持ち直しの動きを見せつつも縮小域を抜け出せず、半面、非製造業では、50台を維持、景気減速の影響がより少ないことを示した。

5月の企業景況感は、住宅不況やサブプライム問題の拡大による信用不安が続いているものの以前ほどの緊迫感はなく、エネルギーコスト上昇への警戒の高まりも、すぐに利上げに転じるほどの状況にはないため、景気悪化はそれほど深くはならないとの観測を反映したものと言えそうだ。

（図表1） ISM指数の推移（月別）



（資料） Institute for Supply Management、以下も同じ。

（注：NMI(Non-Manufacturing Index)は、本年1月より非製造業指数の総合指数として発表を開始。事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延の各指数の均等ウェイトで構成されている。）

(各指数の内訳)

2、製造業各指数では、インフレ圧力の高まりの半面、底入れの兆しも

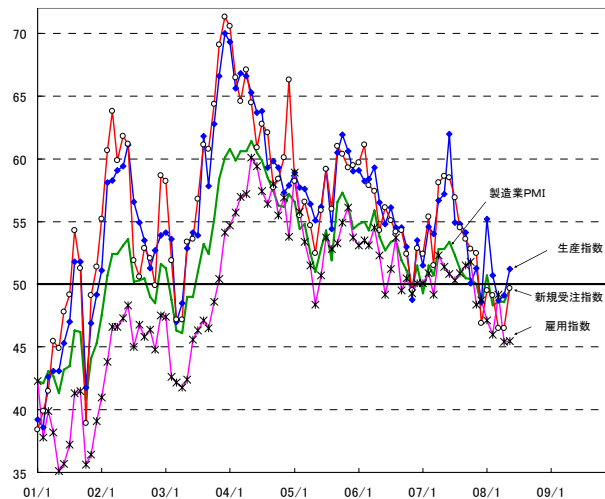
ISM製造業指数のうち、指数別に5月の動きで2ポイント以上の上昇となったのは、新規受注(前月46.5→49.7)、価格指数(前月84.5→87.0)、生産指数(前月49.1→51.2)、輸出指数(前月57.5→59.5)で、半面、下落が大きかったのは受注残(前月51.5→46.0)だった。

新規受注、生産指数の上昇は製造業の底入れ機運を高めるものと言えるが、半面、雇用指数(前月45.4→45.5)は製造業の雇用増減の境目となる49.5から下方への乖離が拡大したまま推移しており、製造業に於ける雇用減が続くことを示唆している。

また、価格指数は更なる上昇(前月84.5→87.0)を見せ、2004年4月(88.0)以来の高水準となった。原油・商品価格高騰等を背景にしたものであり、78%の回答(4月は71%)が仕入れ価格の上昇を指摘するなど価格上昇圧力の一層の高まりを窺わせる。

この他、輸出指数(前月57.5→59.5)、輸入指数(前月48.0→49.5)とも持ち直しの動きを見せたが、輸出指数の水準が輸入指数を10ポイントも上回るなど、製造業の輸出が依然堅調で、純輸出が改善方向にあることを窺わせる。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移(月別)



(図表3) ISM指数製造業と非製造業指数の一覧

	製造業指数							非製造業指数						
	5月	4月	3月	2月	1月	12月	4→5月 変化幅	5月	4月	3月	2月	1月	12月	4→5月 変化幅
PMI/NMI	49.6	48.6	48.6	48.3	50.7	48.4	1.0	51.7	52.0	49.6	49.3	44.6	N/A	▲ 0.3
生産/事業活動	51.2	49.1	48.7	50.7	55.2	48.6	2.1	53.6	50.9	52.2	50.8	41.9	54.4	2.7
新規受注	49.7	46.5	46.5	49.1	49.5	46.9	3.2	53.6	50.1	50.2	49.6	43.5	53.9	3.5
雇用	45.5	45.4	49.2	46.0	47.1	48.7	0.1	48.7	50.8	46.9	46.9	43.9	51.8	▲ 2.1
入荷遅延	53.7	54.0	53.6	50.1	52.8	52.6	▲ 0.3	51.0	56.0	49.0	50	49	52.5	▲ 5.0
在庫	48.0	48.1	44.9	45.4	49.1	45.4	▲ 0.1	54.0	47.0	51.5	50	44.5	50.5	7.0
価格	87.0	84.5	83.5	75.5	76	68	2.5	77.0	72.1	70.8	67.9	70.7	71.5	4.9
受注残高	46.0	51.5	47.5	45.0	44	43	▲ 5.5	49.0	50.0	47.5	49.5	46	49	▲ 1.0
新規輸出受注	59.5	57.5	56.5	56.0	58.5	52.5	2.0	54.0	48.5	55.0	46.5	52	50	5.5
輸入	49.5	48.0	45.0	47.5	52.5	48	1.5	48.0	50.0	54.5	49	41.5	50.5	▲ 2.0
在庫セメント	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	66.5	63.0	60.5	60.5	57	64.5	3.5
顧客在庫	47.0	45.0	51.0	49.0	49.5	51.5	2.0	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

製造業全体では、総合指数（PMI）が4ヵ月連続で50を下回り、価格指数の一層の上昇はエネルギー価格上昇が仕入れ価格全般への影響をさらに強めていることを示したが、輸出指数の上昇に加え、生産が50を超える好転を見せるなど、景気底入れの兆しも窺える。

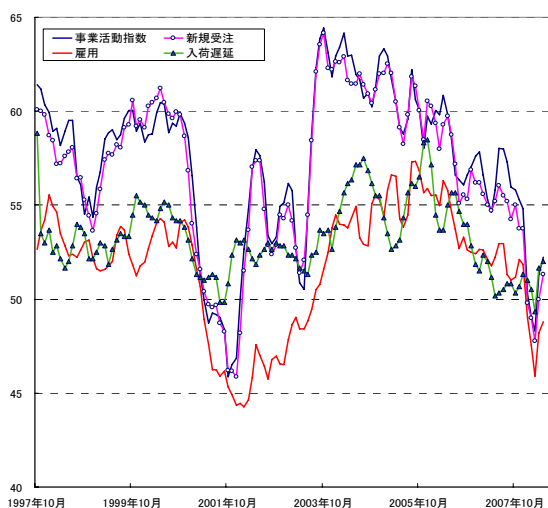
3、非製造業の指数別内訳では、在庫・輸出・価格指数の上昇が大

非製造業では、総合指数であるNMIは小動き（52.0→51.7）だったが、各指数の動きは活発だった。中でも、在庫指数は54.0（前月47.0）と上昇幅が大きく、新規輸出受注指数が54.0（前月48.5）、価格指数が77.0（前月72.1）とこれに続く。反面、下落幅が大きかったのは、入荷遅延51.0（前月56.0）、雇用指数48.7（前月50.8）、輸入指数48.0（前月50.0）等だった。

価格指数の上昇は製造業と同様にエネルギー価格上昇の影響の広がりを示すもので、価格上昇回答（4月60%→65%）はさらに高まり、すべての業種（18業種）で仕入れ価格の上昇が報告された。最近の動向が注目される雇用に関しては、4月に4ヵ月ぶりに50台を回復したものの5月は再び48.7へと低下した。雇用増を回答した8業種に対し、減少を回答したのは7業種だったが、増加業種には、鉱業、農林水産業、リクレーション等があり、減少業種には、運輸・倉庫、小売り・卸売り、ヘルスケア等が含まれる。

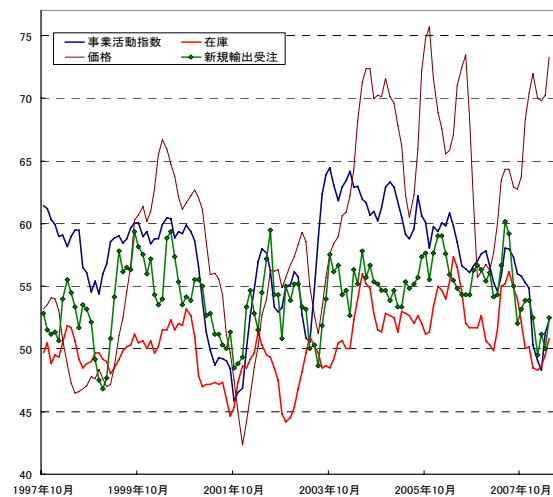
非製造業指数全体では、新規受注の上昇は先行きの景気の底堅さを、輸出受注指数の好転は、輸出の景気下支えを窺わせるものであり、価格上昇や雇用減の懸念がある中、非製造業の緩やかな景気拡大を示唆しているものと言えよう。

（図表4）ISM非製造業指数の内訳（1）



注：3ヵ月移動平均

（図表5）ISM非製造業指数の内訳（2）



注：3ヵ月移動平均

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

（Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載）